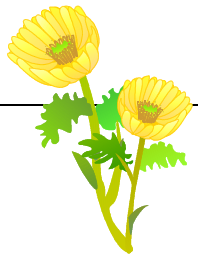
金沢市立浅野川中学校　令和６年度 第54号　令和７年３月１１日発行

あさのがわ通信



3.11 も忘れない…

平成２３年３月１１日、午後２時４６分に起こった「東日本大震災」。現在分かっている最新の情報では、死者1万9782人、行方不明者は2550人だそうで、いかに被害が甚大だったかを物語っています。

あれから１４年。私はこの日が来る度に子どもたちには伝え続けてきましたが、昨年は能登半島地震が起こってまだ日も浅かったので、この話は控えました。しかし、日本人として、能登半島地震と同様に、決して忘れてはいけない、風化させてはいけないことだと考え、この学校だよりを書くことにしました。

今の３年生は当時１歳だと思うので、中学生で覚えている人はいないと思いますが、保護者の皆様は記憶にあるのではないでしょうか。

この地震は金沢市でも震度３を記録しました。金沢で揺れを感じたとき、私は卒業式の準備で当時勤務していた学校の体育館にいました。一瞬阪神淡路大震災を思い出しましたが、まさか、こんな大きな地震が遠い所で起こっているとは思いもせず、準備を終えて職員室に戻ったら、テレビでヘリコプターからの映像が流れていました。それは生まれて一度も見たことがないもので、津波で家や車が次々に流されていく信じられない映像でした。この世のものとは思えないその恐ろしい光景に絶句してしまい、茫然と立ち尽くしてその映像を見ていたことを今でもはっきりと覚えています。

当時被災地にいた中学生は、卒業式や高校の入学など、これから始まろうとしていた新しい生活が一瞬にして真っ暗になったに違いありません。また、家族は無事なのか、無事だとしてもどこにいるのか、とりあえず、今日はどこに帰ればいいのか、など、我々の想像を絶する不安に駆られていたと思います。

１４年経った今でも避難者は約2万9千人だそうで、今もなお苦しんでいる方がたくさんいらっしゃることを思い、そして私たちにできることは何なのかを考える。そのためにも3.11を忘れてはいけないと思っています。

さて、今年の卒業式で３年生が「群青」という合唱曲を歌います。この曲は、福島県南相馬市にある中学校の生徒と先生によって作られました。その学校は「小高中学校」といい、１４年前の震災で大きな被害を受け、生徒が４人亡くなられました。その学校がある地域は、原発事故による避難指定区域となって、多くの生徒たちが全国各地に避難することとなり、小高中学校は他の中学校の校舎の一部を借りて、新学期がスタートしたそうです。

津波で同級生を失ったり、遠い避難先から今もなお戻ってこない友だちを思ったりする生徒たちの、思いを綴った日記や作文、他愛もないおしゃべりから、音楽の先生がそれらの想いを書き留めていき、それをつなぎ合わせて「群青」の歌詞が出来上がり、その歌詞に、音楽の先生が作曲してこの歌が完成したそうです。

卒業式では、３年生はこれからそれぞれの道を歩んでいく仲間を思いながら歌ってほしいし、１・２年生、そして参列される保護者の皆様には歌詞に込められた思いを想像しながら聞いていただけたらと思います。
今日は公立高校入試１日目。３年生の全員合格を祈りながら…

群青

作詞　福島県南相馬市立小高中学校　平成24年度卒業生
作曲　福島県南相馬市立小高中学校音楽教諭　小田　美樹　　編曲　信長　貴富

ああ　あの町で生まれて　君と出会い
たくさんの思い抱いて　一緒に時間を過ごしたね
今　旅立つ日　見える景色は違っても
遠い場所で　君も同じ空　きっと見上げてるはず

「またね」と　手を振るけど　明日も会えるのかな
遠ざかる君の笑顔　今でも忘れない

あの日見た夕陽　あの日見た花火
いつでも君がいたね
あたりまえが　幸せと知った
自転車をこいで　君と行った海
鮮やかな記憶が
目を閉じれば　群青に染まる

あれから2年の日が　僕らの中を過ぎて
3月の風に吹かれ　君を今でも思う

響け　この歌声　響け　遠くまでも
あの空の彼方へも
大切な　すべてに届け
涙のあとにも　見上げた夜空に
希望が光ってるよ
僕らを待つ　群青の町で

きっと　また会おう　あの町で会おう
僕らの約束は
消えはしない　群青の絆

また　会おう　群青の町で…